



健康コラム

なぜ、アレルギー疾患は増えたのか

社会の急速な変化

この40年ほどの間に、日本を初めとする先進国ではアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎・結膜炎など）が急増しました。最近では、経済成長が著しい新興国でもこのような疾患が増えています。こうしたことから、経済活動の発展に伴う環境の変化、生活様式や食生活の変化など、現代文明に特有の何らかの刺激がアレルギー疾患の増加に関与している可能性が高いと考えられています。

アレルギー疾患は遺伝するのか

親に何らかのアレルギー疾患があると、子どもが同じアレルギー疾患を発症する確率が少し高いことがわかってきました。しかし、遺伝子の影響だけでは、わずかな期間に急増したメカニズムを説明することはできません。同じような遺伝子を持つ民族の間でも、ヨーロッパの都会で暮らす人よりもアレルギー疾患が多いというデータもあります。親子は環境や食事から受ける影響がよく似ますので、仮に遺伝の影響がないとしても、親子が同じア



レルギー疾患を発症しやすくなる可能性もあります。

遺伝子と環境の相互作用

これまでの研究で、いくつかの遺伝子の持つパターンの違いが、環境からの刺激の受けやすさに関係していることがわかってきました。たとえば、大気汚染の影響を受けやすい人と受けにくい人がいること、そして、影響を受けにくい遺伝子パターンを持っている子どもでも、親がタバコを吸うとそのメリットがなくなってしまうようです。ネコを飼った場合に、アレルギー疾患になりやすい人となりにくい人がいるらしいということもわかってきました。私達は実に沢山の遺伝子を持っており、複数の遺伝子がアレルギー疾患に関与しているようですが、環境からの影響も受けるため、その複雑なメカニズムの解明はまだ研究途上にあります。

アレルギー疾患は予防できるのか

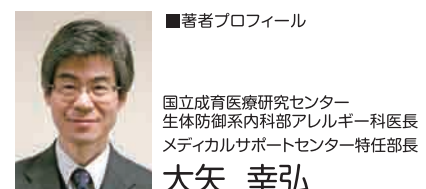
妊娠中や授乳中のお母さんが特定の食べ物を制限することで、生まれてくる子どものアトピー性皮膚炎や食物アレルギーが予防できるのではないかと考えられていた時代もありました。しかし、その後の研究で、そのようなことはないことがわかりました。つまり、子どものアトピー性皮膚炎や食物アレルギーは、お母さんが好きな

このコラムでは、環境や健康に関する話題を専門家が分かりやすく解説します。

ものを食べていたせいではなかったのです。最近、特定の食品を摂るとアレルギー疾患の予防や治療ができるというような広告を目にします。本当にそのような効果があるかどうかを実証するためには厳密な試験（二重盲検ランダム化比較試験）を行う必要がありますが、そうした試験を行っている食品は少ないようで、手放してお勧めできるものは無さそうです。エコチル調査からも、得られた情報をもとに、有効な予防法が開発される可能性があるかと期待しています。



アレルギーに関する最新の情報はこちら
<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>



■著者プロフィール
国立成育医療研究センター 生体防御系内科アレルギー科医長
メディカルサポートセンター特任部長
大矢 幸弘
1985年名古屋大学医学部卒業。
名古屋大学小児科、国立名古屋病院小児科、国立小児病院アレルギー科を経て、2002年から現職。
専門は疫学、臨床疫学、行動医学および小児アレルギー疾患の臨床。

❖さい帯血バンクにも参加できます

■日本さい帯血バンクネットワーク <http://www.j-cord.gr.jp/>

さい帯血は、白血病など血液の難病や重い遺伝病などの治療に使われています。公的さい帯血バンクと提携している医療機関で出産される妊婦さんは、エコチル調査に参加しながら、公的さい帯血バンクにさい帯血を提供することができます。提供されたさい帯血は、血縁に関係なく移植を必要とする患者さんを救うために使われます。

❖参加者のみなさまへのお願い

住所が変わった時は、担当のユニットセンターに新しい住所をお届けください

転居先が15ユニットセンターの調査地区内であれば、そのユニットセンターに引き継いで、ご協力をお願いいたします。調査地区外の場合は、コアセンターが引き継いで質問票調査など可能な範囲で継続をお願いいたします。

質問票調査にご協力ください

みなさまにお答えいただく質問票は、今後の調査、研究にとって非常に貴重なデータとなります。ちょっと答えにくかったり、時間がかかってしまうときもあるかと思いますが、質問票への回答、返却にご協力いただけますようお願いいたします。

編集後記

お正月太り解消のため、なるべく体を動かさねばと思いつつ、あまりの寒さにコタツから抜け出せない日々が続いています。みなさんは、どうお過ごしでしょうか？さて、エコチル調査だより Vol.2、いかがでしたか？今回取り上げた「お食い初め」ですが、土地柄で口にするものは違っても、子どもたちの幸せを願う気持ちは全国共通ですね。私たちも、お子さまがすくすくと元気に成長されることを、心から願っております。(KK)

お問い合わせ エコチル調査コールセンター

0120-53-5252

9:00 ~ 21:00 (フリーダイヤル・年中無休)

■発行

子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査) コアセンター

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2
独立行政法人国立環境研究所



リクルート状況/国際的な連携・協力/ユニットセンター巡り

■健康コラム

なぜ、アレルギー疾患は増えたのか

vol.2
2012年2月

あなたがたより



エコチル だより



エコチル調査だよりは、「子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査)」の研究成果や進捗状況を参加者のみなさまへお知らせする情報紙です。

Japan Environment & Children's Study

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>

化学物質とのつきあい方を考える

エコチル調査のサポーター代表で、明治大学理工学部応用化学科教授の北野大先生にお話を伺いました。

くということです。

Q 化学物質を使っていない天然のものなら安全なのでしょうか？

食品添加物を例にしますと、人間が食用としてきたものの一部が添加物になっているものがありますが、そういうものは心配ないでしょう。ナスの色素やミカンの香料とかね。ただ、天然物であっても、食用でないものを使った色素などもあります。なので、天然物だから安全というわけではないんです。また、保存料などの添加物を一切使わなければ、食中毒の方がはるかに大きなリスクになってしまいます。

Q 先生は化学物質の専門家ですが、身の回りの化学物質について、どう考えればよいのでしょうか。

私自身、化学物質の果たしている役割は否定しませんが、一方で人の健康や環境に影響を及ぼした物質があったことも事実です。化学物質の有用性は認めつつ、それを上手く使おう、というのが私のスタンスです。

Q 化学物質は増えているのでしょうか。

医薬、農業、食品添加物以外で、1t以上製造または輸入される化学物質に限っても、新たに年間300種類以上できています。これらは決められた試験法で事前審査を受けているのですが、それには限界があります。また10万種ともいわれる既存の化学物質についても、世界レベルで試験をやっていますが、まだ全てではありません。そこで重要なのが事後管理です。

毒性試験など、事前にできる限りのことをやって、万が一新たな悪影響が出たら、禁止または制限してい

Q 妊婦さんやお母さんに気を付けてもらいたいことはありますか。

食に関して言うと、できるだけ家庭で食事を作ることが、化学物質のことだけではなく、子どもの成長にとっても良いと思うんですね。家で作れば、保存料も色素もいらなないでしょ。ただ、お勤めされて大変なお母さんもいらっしゃるから、そこが難しいですね。

Q 神経質になりすぎずに、なるべく家庭での食事を心がけましょうということですね。子どもの育て方についてはいかがでしょうか。

「共助」という言葉がありますが、社会全体で子どもを育てていく、そういう社会を作っていきたいで



明治大学理工学部教授/工学博士
きたのまさる
北野 大 Masaru Kitano

profile

北野 大(きたのまさる)
明治大学教授、専門は環境化学。環境省の中央環境審議会委員や経済産業省の化学物質審議会委員を助める。「安全学入門」、「人間・環境・安全」など、著書も多数。

すね。私のお袋は、自分の子もよその子も同じように可愛がった。一種の共助ですね。それと同時に、お子さんが産まれる前にも目を向けて、安心して赤ちゃんを産める社会になるように、環境面でも注意してあげたいですね。

Q 最後に、先生がこの調査に期待することはなんでしょうか。

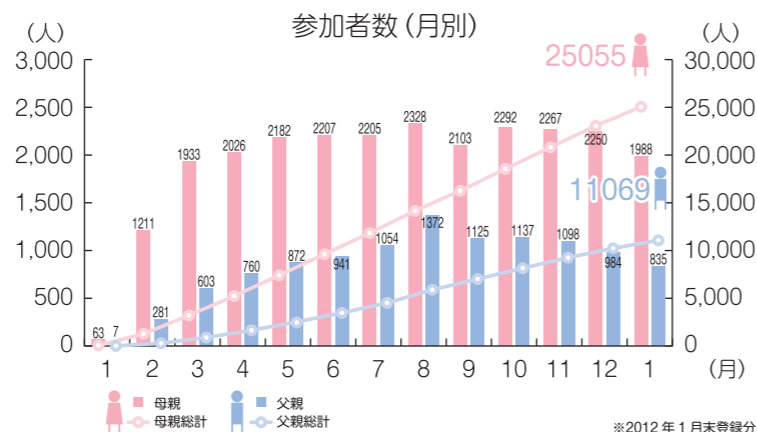
この調査の成果というのは、世界中の国に対して、大変大きな知見になると思います。自分の子どもや孫のためでもあるし、日本国民全体、そして世界のためでもある。お母さん方には、そういう意義を理解していただきたいですね。あとは、参加することで、お母さん自身も化学物質や環境に対して、より関心を持つようになるんじゃないかっていう、そういう効果も期待しています。

詳しくは、環境省エコチル調査HPをご覧ください。<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>



リクルート状況

エコチル調査のリクルート活動が開始されてから、早いもので1年が過ぎました。この1年の間に、約25,000人のお母さん、そして約11,000人のお父さんから参加の同意をいただくことができました。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございます。目標である10万組に向けて、これからも一歩一歩頑張っていきますので、今後とも応援よろしくお願いたします。また、エコチルベビーも各地で続々誕生しています。現在までに登録されたエコチルベビーは約11,000人。ご出産された皆様、おめでとうございます！スタッフ一同、お子さまの健やかな成長を、心から願っております。



国際的な連携・協力

全国10万組の親子にご協力いただくエコチル調査は、世界でも数少ない、大規模かつ長期にわたる出生コホート調査(*)として、国際的にも大変注目されています。現在、アメリカでも、10万組の親子を対象とした「全米子ども調査」が計画され、本格的な実施に向けて予備調査が進められています。また、ヨーロッパ諸国でも同様の大規模調査が計画されています。このような各国の調査同士が連携・協力することにより、一つの調査だけでは得られない成果を得ることができます。例えば、小児がんなど稀な疾病については、10万人規模であっても影響を解析することは容易ではありませんが、各国の調査データを集合させることで、より精度の高い解析が可能となります。このため、各国のコホート調査が連携して

「国際小児がんコホート協会」という組織を作り、それぞれのデータを一つに集めて解析する取組が始まっています。エコチル調査も、昨秋、この協会に参加しました。また、平成23年2月、各国の研究者による「エコチル調査国際連携会議」が東京で開催され、調査手法の共通化や相互比較に取り組んでいくことが合意されました。これらの合意を受けて、世界保健機関(WHO)が中心となって専門家会合が開始され、

平成24年2月には北九州市で会合が開催されました。エコチル調査は、世界最大規模の出生コホート調査として、世界をリードしていくものです。調査に参加いただいているみなさまも、このような形で世界につながっています。世界中の未来の子どもたちのために、これからもご協力を願っています。

※1：出生コホート調査…ある一定期間内に生まれた人口集団の変化を追跡して行く調査



エコチル調査国際連携会議(平成23年2月)

ユニットセンターの行事紹介

千葉ユニットセンター

エコチル調査参加者でご出産済みのお母さんを対象にしたボディコンディショニング講習会を開催しています(不定期)。育児・家事にと忙しい毎日。ちょっと休憩して、心と体を癒してみませんか。詳しくは千葉ユニットセンターのHPをご覧ください。

兵庫ユニットセンター

ケーブルテレビ Baycom で、エコチル調査のCMを放映中です。尼崎市長にもご出演いただいております。FM あまがさきでもCM放送中です。(平成24年3月まで)

福岡ユニットセンター

平成23年10月 西日本最大の環境イベント「北九州エコライフステージ2011」(北

九州市主催)が行われ、産業医科大学サブユニットセンターもブースを出展しました！チラシ・パンフレットの配布やエコチル調査の説明を多くの方に聞いていただくことができました。また、平成23年12月には「すくすく子育てフェスタ」(北九州市主催)にも参加し、エコチル調査の説明の他、写真撮影コーナー、エコチルぬりえ、オリジナル牛乳パックカレンダー作成など、多くのお父さんお母さんや子どもたちに楽しんでいただきました。ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました。



すくすく子育てフェスタ

※ここで紹介した以外でも、各地で様々なイベントを行っております。詳しくは各ユニットセンターのHP等でお知らせしておりますので、ぜひチェックしてみてくださいね。

●エコチル調査のサポーターになりませんか

参加者のみなさまやご家族はもちろん、参加者以外の方でもこの調査の趣旨にご賛同いただける方は、下記のエコチル調査HPからサポーター(応援)にぜひ登録ください。環境省から調査の進捗状況や最新情報などをメールマガジンでお届けします。

(サポーターページでは、過去のメールマガジンを読むこともできます)

<http://www.env.go.jp/chemi/ceh/>



モバイルサイト

ユニットセンター巡り

ユニットセンターから届いた話題をお届けします。

お食い初め、何食べる？

全国15の地域を対象としているエコチル調査。それぞれの対象地域は、気候や風土、生活環境も大きく違います。ところ変われば風習も変わる、ということで、今回は2つのユニットセンターから、お食い初めの風習についてレポートしていただきました。

南九州・沖縄ユニットセンター

こちらは南九州・沖縄ユニットセンターです。

私たちの調査対象地域である宮崎県延岡市では、お食い初めの祝い膳にナマズを出す風習があります。

ナマズは口が大きく雑食なので、子供が食べ物に困らず、好き嫌いのない子に育ちますようにという願いが込められています。肝心のナマズですが、スーパーなどには売っていないため、近くの川などで捕獲します。赤ちゃんが産まれると、お食い初めの時期を見計らって、近所の方が捕まえてきてくれることもあるそうです。

ナマズは蒲焼きにしてお膳に出されますが、ナマズが捕れない時期は、昔は乾燥させたナマズを用いたり、ナマズの絵を飾ったりしていました。近ごろでは、本物のナマズでなく、ナマズ形のケーキやお菓子を買って食べるご家庭も増えているようです。



食べるのがもったいない！

富山ユニットセンター

富山ユニットセンターの調査対象地域でも、エコチル調査ラッピングバスが元気に街を走っています。こちらは、富山市、黒部市内を運行しており、バスの後方には富山ユニットセンターのキャラクターである”エコチルとやまくん”が大きく描かれています。この”エコチルとやまくん”、「キャラクターが可愛い！」と街の方にも好評です。「このバスの後ろに止まると、広告内容をじっくりと読みたくなる」というドライバーの声も頂いています。寒い北陸の冬が少しでも暖かな雰囲気になるよう、エコチルバスは今日も元気いっぱい走り回ります。



大阪ユニットセンター

こんにちは。大阪ユニットセンターです。大阪方面でお食い初めのお膳に出されるのは、「大阪名物たこ焼き」でおなじみの「たこ」です。お刺身用のたこの足を用意するご家庭もありますが、ここでは「イイダコ」が良いとされています。「イイダコ」は漢字で「飯蛸」と書きますが、胴部に詰まった卵の食感や見た目が、お米と似ているということから「飯蛸」と名付けられたという説もあります。そのようなわけで、ご飯に食いつぶれない(食べ物に困らない)ようにという願いをこめて、お食い初めに「飯蛸」を供するのだそうです。通常は、たこの足をくわえさせたり吸わせたりするだけですが、中にはたこの頭をかじる強者の赤ちゃんもいるそうですよ。

たこをガブリ!



エコチルバスが行く!

車体に広告を施した“ラッピングバス”、街でよく見かけますよね。実はエコチル調査のラッピングバスが走っている地域があるんですよ。読者の方の中には、ピンときた方もいらっしゃるのではないのでしょうか?

※福島ユニットセンター、富山ユニットセンターともに、平成24年3月末までの運行予定。

福島ユニットセンター

福島ユニットセンターの調査対象地域である、福島市、伊達市、伊達郡では、市内をエコチル調査ラッピングバスが運行しています。対象地域にお住まいの方の中には、ピンク色の可愛いバスを見かけた方も多いのでは? 「このバスを見かけたとき、うれしくて、『私が参加している調査だよ!』と友人に言いました」という参加者の方や、「『エコチル調査』は知りませんでしたが、「自分にも関係しているかなあ」と興味湧き、インターネットで調べてみました」という方もいらっしゃいました。エコチルバス効果、早くも出てきているようです。

